

第3回あゆ王国高知振興ビジョン推進協議会 議事概要

■開催日時：令和5年5月24日（水）13:30～16:00

■開催場所：高知県民文化ホール 第6多目的室

■出席委員：黒笹会長、岡村副委員、坪井委員、百田委員、岡林委員、藤本委員、西脇委員、林委員、西内委員、吉村委員、門田委員

■議事：

(1) 令和4年度の取組実績について（資料1～4に基づき事務局から説明）

○県・市町村・漁協等の取組に対する委員からの主な意見

- ・人を呼ぶには、道路、駐車場、トイレなどの環境整備が重要になると考える。（門田委員）
- ・7月22日に仁淀川であゆ釣り全国大会の西日本ブロック大会が開催されることになっている。全国大会、決勝大会誘致に向け、仁淀川流域交流会議、県、市町村の方と協力して進めていきたい。（吉村委員）
- ・あゆを守るためにも、河川環境の保全に力を入れていく必要があると考えている。仁淀川だけではなく、高知県下の河川すべてが河床の固定化などの状況にあり、環境の問題をメインに取り上げていただきたい（吉村委員）
- ・川の環境が悪化している中で、どうやってあゆや環境を守っていくのかと言う点で、少子化が進む中で食文化を守る際に、実際にものがなければどうしようもないので、環境保全等について子供たちに伝えていきたいと考える。（百田委員）
- ・友釣りの振興は大事ではあるが、最初に友釣りでは難しいと思うので、毛針釣り、エサ釣り等の多様なあゆ釣りにより、間口を広げるような取り組みもあってもいいのではないかと考える。また、川のにぎわい、他の生き物が増えるような河川工事をより積極的に、河川管理者と協力しながら行っていくことで、あゆ王国がより輝きを放つのではないかと考える。（坪井委員）
- ・食の部分で言うと、安定供給の問題と、いかに新鮮な状態で提供するのかという問題がある。冷凍なら冷凍で、きちんと提供できるような状況にすることを流通を含めて考えていく必要がある。（藤本委員）

(2) 令和5年度の取組計画について（資料5、6に基づき県、市町村から説明）

○県・市町村・漁協等の取組に対するの委員からの主な意見

- ・川遊びそのものにも伝統的な技術のようなものがあるので、子どもたちと一緒に川遊びを楽しんでもらえる人たちを養成し、子どもたちを川に連れて行って楽しませることで川遊びを次世代につなげることができると感じる。（黒笹委員）
- ・6月1日の解禁日に向け、活アユを豊洲に送ることとしている。昨日、豊洲の担当者と「日本一の値段をつけられるよう、お互い頑張っていきましょう」という話があった。こういった、あゆを販売する方に、今後高知県のあゆを知ってもらうためには、環境のことも考えていく必要があると思う。（林委員）

(3) あゆ王国高知振興ビジョンの見直しの方向性について（資料7、8に基づき事務局から説明）

- ・やらなきゃいけないことはなるべく具体的に書いたほうがはっきりする。また、まとめる過程

で、曖昧にするとやらなきゃいけないことが見えなくなることもある。(黒笹委員)

- ロゴマークやのぼりの使用等を県、市町村で連携し、ロゴマークを積極的に使用できればいいかなと思う。(岡村委員)
- 機会づくり、仕組みづくり、小施策のように、どこまで書くかは微妙だなと思いますが、どんな状態を作ろうとするのビジュアルイメージ作ることでもイメージでも言及できるのではないかと考える。また、難しいと思うがKPIとまで行かなくても、数値化されればもっと良いと考える。(岡村委員)
- 情報発信部会の取組実績で、都市部の飲食店でのメニューフェアとか、首都圏メディアとの情報交換会などについては、非常に効果的だと考える。課題に対して取組を行っているという意図を、都会の人だけではなく、県民にも知っていただくことができる。また、見せ方の問題だとは思いますが、情報発信が「アユに触れられる機会づくり」に入っているが、本来、「加工・流通」、「体験・教育」等全部のところに入っているべきであり、違和感がある。(岡林委員)